



◆其の六十九

「日焼」という地名と
古代官道
こだい官道

市内では、各地で遺跡の発掘調査が行われています。その中で、「日焼」という地名の土地には遺跡が多く見られることから、その関係性についてこれまで不思議に思っていました。詳しく小字の名前を調べてみると、市内には杉塚、塔原、山口、立明寺、天山、若江、隈、岡田の8カ所に「日焼」、二日市に「下日焼」があることが分かりました。これらの「日焼」地名のうち7カ所において遺跡が発見されており、とくに古代の「官道」(都市と都市とを結ぶ高速道路のようなもの)との関わりが深いということに気が付きました。

太宰府市にも同じ様に「日焼」があり、こちらでも古代官道(筑紫館[鴻臚館]と大宰府を結んだ道)が



筑紫野市内の「日焼」地名と古代官道の関係

発見されています。なぜ、共通の「日焼」という地名が付けられたのか、また、「日焼」という地名の意味は定かではありませんが、「日に焼けるような乾燥した土地」という想像でとらえた場合「微高地」であるという共通要素が考えられ、結果として古代官道を通すには好都合だったのかもしれません。

問 文化財課

